

業績リスト(過去3年)

- | | | | | |
|----------------|------------|------------|----------|-----------|
| * (1. 著書 | 2. 論文) | 3. 訳書 | 4. 研究ノート | 5. 書評 |
| 6. 調査報告書 | 7. その他文筆活動 | 8. 作品発表 | 9. 学会発表 | 10. 講義・講演 |
| 11. テレビ・ラジオ等出演 | 12. 公的活動 | 13. 研究助成採択 | 14. その他 | |

* (1. 著書 2. 論文)は別途掲載

杉生 真一 (すぎよ しんいち) [理学療法学科 教授]

2023年

13. 研究助成採択

研究代表者	研究助成者	研究題目	研究年度	助成金額 (万円)	分担者 (含他所属)	
杉生真一	基盤C	吻側延髄腹内側部に連絡する新経路が及ぼす口腔顔面慢性疼痛への役割	R3~R5	416		
						概 要
						口腔顔面領域から上位中枢への侵害情報伝達を調節する機構として、下行性疼痛調節系が知られており、吻側延髄腹内側部:Rostral ventromedial medulla(RVM)はその主要部をなす。以前、RVMと三叉神経脊髄路核中間亜核(Vi)と尾側亜核(Vc)との移行部(Vi/Vc)間に新しい相互連絡経路(RVM⇔Vi/Vc)を見いだした。しかし、RVM⇔Vi/Vcが、侵害情報受容後の経時的変化や、病態モデルなどの状況次第で、どのように疼痛制御を行っているのかは不明である。本研究では、口腔顔面領域における慢性疼痛下での、RVM⇔Vi/Vcが及ぼす疼痛制御のメカニズムの解明を行う。

14. その他

- ・日本スポーツ整復療法学会 評議員

2022年

9. 学会発表

- ・金澤佑治, 長野護, 鯉沼聡, 杉生真一, 重吉康史. 筋損傷後の回復期における基底板関連因子への加齢の影響. 第127回日本解剖学会総会・全国学術集会. 全面web方式. 2022年3月

13. 研究助成採択

研究代表者	研究助成者	研究題目	研究年度	助成金額 (万円)	分担者 (含他所属)	
杉生真一	基盤C	吻側延髄腹内側部に連絡する新経路が及ぼす口腔顔面慢性疼痛への役割	R3~R5	416		
						概 要
						口腔顔面領域から上位中枢への侵害情報伝達を調節する機構として、下行性疼痛調節系が知られており、吻側延髄腹内側部:Rostral ventromedial medulla(RVM)はその主要部をなす。以前、RVMと三叉神経脊髄路核中間亜核(Vi)と尾側亜核(Vc)との移行部(Vi/Vc)間に新しい相互連絡経路(RVM⇔Vi/Vc)を見いだした。しかし、RVM⇔Vi/Vcが、侵害情報受容後の経時的変化や、病態モデルなどの状況次第で、どのように疼痛制御を行っているのかは不明である。本研究では、口腔顔面領域における慢性疼痛下での、RVM⇔Vi/Vcが及ぼす疼痛制御のメカニズムの解明を行う。

14. その他

・日本スポーツ整復療法学会 評議員

2021年

13. 研究助成採択

研究代表者	研究助成者	研究題目	研究年度	助成金額 (万円)	分担者 (含他所属)					
杉生真一	基盤C	吻側延髄腹内側部に連絡する新経路が及ぼす口腔顔面慢性疼痛への役割	R3~R5	416						
						概 要				
						口腔顔面領域から上位中枢への侵害情報伝達を調節する機構として、下行性疼痛調節系が知られており、吻側延髄腹内側部:Rostral ventromedial medulla(RVM)はその主要部をなす。以前、RVMと三叉神経脊髄路核中間亜核(Vi)と尾側亜核(Vc)との移行部(Vi/Vc)間に新しい相互連絡経路(RVM⇔Vi/Vc)を見いだした。しかし、RVM⇔Vi/Vcが、侵害情報受容後の経時的変化や、病態モデルなどの状況次第で、どのように疼痛制御を行っているのかは不明である。本研究では、口腔顔面領域における慢性疼痛下での、RVM⇔Vi/Vcが及ぼす疼痛制御のメカニズムの解明を行う。				

14. その他

・日本スポーツ整復療法学会 評議員